

第18回我入道の集い

日時 11月20日(日) 10:30-16:00

会場 沼津 「芹沢文学館」

沼津市我入道まんだが原 517-1 TEL 055-932-0255

テキスト 11月の読書会は、第18回「我入道の集い」(11月20日)で「出世譜」をテキストで行います。

詳しくは下記の「その他」をご覧ください。

司会 未定

参加費 3000円

連絡先 池田三省 (お問い合わせはこちらまで)

リンク

その他 第18回「我入道の集い」のお誘い

日時：2005年11月20日 10:30-16:00

場所；沼津「芹沢文学館」

費用：3000円 (昼食代・テキスト代含む)

内容：

- | | |
|-------------|-----------|
| 10:30-11:00 | 受付 |
| 11:00-12:00 | 読書会(出世譜) |
| 12:00-13:00 | 昼食(お弁当) |
| 13:00-13:10 | 記念撮影 |
| 13:10-15:45 | 読書会(続き) |
| 15:45-16:00 | みんなで歌おう |
| 16:30-18:00 | 茶話会(自由参加) |

①前夜祭(11/19)「いろりの宿『三吉』」

- ・15時頃、旅館に着き、すぐに露天風呂に行く人と近くの観光地に行く人と好きな方に別れました。
- ・三吉から10数分のところに「浄蓮の滝」があります。滝の処までは、駐車場から10分ぐらい下っていきます。5分過ぎると帰りの登りを考えるのは良くありません。とにかく「ここまで



きて滝を見ないで帰るわけにもいかず」ひたすら下る事です。下に降りると、ありました石川さゆりの”天城越え”の石版が。滝を見ていると涼やかで、マイナスイオン一杯で気持ちよいものでした。

急坂をなるべく速く上がると売店があります。この地名産わさびから作った「わさびソフトクリーム」をいただきました。甘口と辛口があります。辛口が良いお味です。

続いて「天城越え」です。

国道 136,414 などを經由して温泉を目指します。

天城峠では、旧道の方を走ってみました。1.3 車線くらいの未舗装の道(でも交通量が多い)をずんずん上がるとトンネルが見えてきました。やはり、1.3 車線くらいの小さなトンネル。入り口前に小さな踊り場があるので、そこにクルマを止めることが出来ます。ここで撮った写真です。この後ろがトンネルです。狭いトンネルで、なんと車も通ります。歩いている人がいるので注意しましょう。

故石井様から

- ・食事の前に、故石井稔様からの愛読書プレゼント抽選会がありました。一番をひいた管理人の私は愛好会が作った「愛読」をいただきました。

愛読書の中には、芹沢光治良先生の直筆のサインがある貴重な本を手に入れた方もいました。

- ・食事と親睦会の開始である。食事とお酒はおいしく、安井様の韓国の旅のビデオを見ました。崔先生のお話の様子を感じられ感銘を受けました。来年、芹沢光治良生誕 110 周年でお会いできたらと思っています。
- ・プロによる、マジックショー（石川様）これは、すばらしい。トークと手品の醍醐味でした。残り各自池田様の「年に一度のゆっくりと、芹沢文学、光り輝く未来について全国の皆様と語り合う」楽しい会でした（1 時頃就寝）



②我らが聖地「芹沢文学館」での読書会(11/20)

- ・9時に「三吉」から文学館に向かう。三吉から文学館に行くのに一度間違えてしまい、ギリギリに着いた事がありましたが、もう大丈夫です。海沿いの道に進みながら、楽しく文学館に行きました。我入道海岸を眺めました。

・「出世譜」の読書会

1 階と 2 階に別れて読書会を開催しました。芹沢文学館 1 階と 2 階に愛好会会員一杯になり、出世譜について話しました。

読書会の内容を紹介します。走り書きで読みにくいのですが勘弁して下さい。

おくめのの幸せのレベル

P 2 8 L 3

「みんな知ってますよ、何も言わなくていいから、よくあんたを見せて下さい」
一般の主婦の喜び 幸福感 よく充分にあらわされている。

てるの幸福のレベルが同じ

P 4 1最後の行「—奥様、こんなに旦那様が出世なさって、さぞお喜びでございませう、新聞や雑誌にお名前がいつも出て・・・」

一方、銀次の幸福感

書家として魂を打ち込む仕事についててるの話しても仕方がない。外交官として出世して、挿絵画家としては墮落している銀次は決して幸福ではない。

画家というところを小説家と置きかえれば芹沢光治良という事になるのではないか。昭和14年から、戦争への縛り付けが始まる。これからの先を予想した芹沢は、不安になったのではないか。

言葉のズレ

「一昔のことを話されると、僕など墮落して、辱かしく、とても故郷へ帰れません」

銀二の本音 てるには皮肉に通じる

◎部落の人々の運命をかえるような人物

外交官からなぜ画家へ

S：譜の意味はなにか。物事を順序たてる事。主人公は二人。松本銀二、てるについてのおはなし。人間の運命のモチーフを感じる。田部氏やくめなど、名前が出てくるなあと思いつつ読んでいたといやだなあ。

I：出世譜を読みました。どういう事を感じたか。何を言っているか、銀二と松本てるはなにか。この時代の出世は何か。作品を読んでいるとメインはてるではないか。生い立ちを考えながら読んだ。銀地もてるも村を捨てて羽ばたく。銀二は頭の良さ、外交官から画家。てるは美貌だと思う。彼女自身が身を落として吉原にいった。最終的にてるは藤田に巡り会って物理的に幸せになる。銀地に会いに来る。松本てるのかわいそうさに胸を打つ。外交官を捨てて思い通りに生きていく姿をみててるは本当の幸せ

ではないのではないか。彼女の幸せだったのではないかと思った。少女時代の心の清らかさを失ったのではないかと思った。

K : 明治からここまで大変長い期間を書いている。自分勝手に解釈するとういうような状態を楽譜に直し、何かの形で表す。部分的には言えるのですが、

I 2 : 私が尊敬する片山さん。一気に読んでいたらこれが最後だった。家人に聞く。あらずじではなく、何を読めばいいかを感じる。女はかなしい。この時代の女の出世は、旦那できまる。男は微笑して耐えられるけど、おんなは笑いに傷つく。芹沢の女性観が出ている。女に残しているものを失っていない。芹沢が女に残しているものを見せている。幸福は出世とは別ではなく愛している人と一緒に住むのが理想。絵を買う行為は悲しい。銀てるは高いところにいけない。理想的なものを与えている。てるはかわいそうだった。

S : てるがグーと来る。

A : この作品を読んですばらしく良い作品だと思った。前後を比べると草笛、南寺など作風が変わっている。何故書かれたか興味深く思っていた。昭和12年石丸が亡くなって書いた。彼を意識しているのではないか。作品の中にそれをあらわしたのではないか。プチ人間の運命ではないか。人間の運命が出てくる。我を張って怒りまくっている。伊豆の西海岸を思い出したり、ペールの事を意識している。時流に合わせて選ばれたのではないのか。作品の情景ではラジオ小説か映画ではないのか、海辺の色をあらわしたのではないのか。色彩あふれるところが出てきた。どうなるだろうどうなるだろうとわくわくさせられた。

I 3 : 石丸の現状の報告。石丸を軽く書いているのではないか。

A : 正直書いていてわかっているのではないか。神の慈愛でペールのやりとりは著しい誤認を書いている。昭和12年になくなっている。
なくなられているのになぜか。そちらの方が真実ではないかと。それが創作だった。

S 2 : 出世、幸福、男と女の違い。女性が単純ではないかと思った。親のいじめと現代に通じるものがある。嵐の夜に兄二人溺死した。くめが戻った時に親と子の関係はおかしいかもしれないけど何か一つ言いたくなる場所がある。どうなるかどうなるかを考えた。井上靖関係で映画にしたらどうか。彦島、馬鹿踊り、その名中で生きている姿。くめは独りよがりではないか。将来銀二といそげようとしたところは、ちょっとと思った。



- S 3 : 出世譜えお読んだ。ストーリー的で面白かった。沼津、舞台。戸田。昭和14年作品。この辺で生まれた。宮じょう。かいかーそん。宮条という地名があり、宿があった記憶がある。うづらなという方言などすべて入っている。理想像は子の中に入っている。勉強している勉強しているというつもりでいったがうまくいかない。価値観の違いがありすぎる。価値観の違いはどういうところがあるか、銀二は最高の学力をつけた。厳しい現実をいきた人。二宮金治郎を納めたが、くずれていく場面がある。人間の幸せはどんあところがあるのだろうか。閲覧に写真集。後で回す。
- H : 出世はどういうことかP13よくよく・・・。女にはなんの意味をするのだ。今は出世という事を言わない。女性は出世するということはない。男も女も仕事をして違いはない。子の時代女にとって何を意味するのか。ちぐはぐしていみがない。てるをあんまり悪く思わないでほしい。立派な男性に嫁ぐほかに頭の側で出世を考えていた。兵隊の検査で紋付きはおりは意外だった。P15真面目な入り江、P16 てるは力ませにすってぼたぼた地面に落ちた。てるさんに同情したくなる。
- K : 藤沢からきました。主人公の銀二をながめながら共通するものは何か。貧乏を抜け出そうと努力をして抜け出そうとした。出世につながった。銀二は外交官になっ谷も関わらず画家になった。努力と人の出会いは出世につながると思った。お互いに理解できなかった。出世はお金に換えられるものではない。
「わち」は、子供時代男の子も女の子もよく使っていた。藤川は金持ちではなかった。二人で揃って懸命になって働いた。銀二の出世は、ツルと噛み合わない。
あんまり久米さんの話に乗っていかなかった。やはりここは銀二に理解できなかった。
- Y : 練馬から北山田です。人間の運命と重なる。船酔いは先生の体験ではないか。つると銀二は書かれ方が違う。生きる姿勢はどのようなものか。気持ちの上では常に清い気持ち向上心を持っていく。真心をなくさないで生きてきた。結婚はなかなか難しかった。夫藤田と出会って良かった。最初の読後感では悲しい気持ちがした。なかなか思い通りになれない。素直に銀二さんの写真に何も反応しない。
- T : りそうとたゆまぬ努力を感じた。楽譜のイメージを感じた。男性は大きくとらえる。それに無糧努力する。最後は藤田と巡り会いたまたまお金持ちに成って良かった。しかし考えさせられた。先生は絵が上手だった。女性の髪型一つにしても創造させてくれるおもしろさ。表現。生臭さなど追体験をしたようだ。
- G : 豊橋から。いつ書かれたかに注目。戦争に近づく。目次P79日米条約破棄は憂えるべきか。アメリカが一方的に破棄させられる。トリッキーな方法で戦争をやらなければいけないなど。銀二とツルは違いがある。テルは勉強をしたい。新聞を読みたい。など自分の好きなことで名を揚げたい。かみ合わない。最後の4行5行がクライマックス。
若い時は出世しようと誓ったはずだ。然しそれがやっとならなくてかみ合わない。侮辱されたようだと良くわかる。3年後に巴里に死すを発表。・・・寄付する。ゲイ

ツは一兆円寄付する。悲しいと思う。むかしでは、5000万円で阪急で売った。

S : 床の間の絵にならないから。画家として魂を打ち込む職業として。本人としては魂を打ち込むのが作品を嬉しい。三幅（ぷく）の対

M : 三島の出世譜。音楽を表している。私も底をあらわす。テルさんは演歌。銀二はクラシックではないか。クラシックで作曲中で音を重ねている。演歌で3番を歌っている状態。P20みそぎをしてはじないつもり 最後ではこれが生涯・・・下げ詰まった感がある。物質的に豊かになること。まれではないか。

K3 : P19 「めそぎ 海水・・・」胸が痛くなった。深く胸に入った。

S4 : これを読みまして出世すると言うことが人生の幸福とどうつながるか、女の幸せはどうつながるか。二人とも優秀な子供達。この二人の出会いがどうなるか。人の生きる道というか自分の道を選ばなくてはいけない。物質的なもの、そういうことにこだわること。一枚の写真は象徴的な役割を果たしている。体を清めて東京に出ると女の悲しさが良く出ている。おくめをとおして2カ所出てくる。銀二をとおしてテルをとおして女のしあわせを見ることが出来る。

Y : 愛知から。人間の運命をだぶらせながら読んだ。だけど人物としては違う人生にしているのではないかと感じられた。こういう作品を何作か書かれて人間の運命にいったのではないか。私は方言が出ているのが気に入った。この作品に出会って漁村の単元が豊富に出た。とても気に入っている。渥美半島で育ったが、静岡と似ている。私は読書というのは通り一遍しかしていない。電車の中で読んでいる。皆さんの発言を聞いて勉強させられた。音悪、映画でも納得できた。

S5 : 読んだつもりでも新しい作品だと感じる。読み終わってもドウ消化するか悩んでいる。この時代食べるものに困っているのに出世するのはどんなに大変か。女の人の小さな器、男の人の大きい精神。

S6 : 大きな字で読みやすく、字は難しいのはとびこしてしまう。船酔いは大変。黒潮はすごい。全員片っ方側から動く。洗面器を持って乗船。八丈島。今は飛行機。40分。信じられない。先生の船酔いに思いをはせる。2カ所ほど女の幸せは男に頼ってというところがある。経済的自立にまだ書けない時代だったのではないか。テルのお母さんも男性に頼って生きる。またいなかに戻って生活する。他で生きていくのではないか。

M : いろいろお考えがあっといういなあと思う。光る言葉がたくさんある。P3花を回る。先生は悪知恵をかうから、おっかうという意味。悪知恵を入れる。端の事。何か懐かしい気がした。出世譜とは、人生の動き、節目に？与える。女性としての生き方はあるのではないか。昭和14年貧しい。先生は女性の向上心は？最後の道を得てきて人生をどう考えるか。今の時代は欧米並みの考えを持つ。でも本当はというの

ではないか？個々の感想は違うけど無念に何かあるという感想。

- H : 東中野からきた文子。昭和14年はそんなに昔ではないのが、女の人がこのような苦しみは悲しいのではないか。出世は、今恵まれた時代ではいろいろな意見が出るが、食べ物がない状態から脱出するのが出世ではないかと思う。出世と幸福は別なものではないか。てるは幸せではないか。つるは、もしかしたら藤田に対する思い方が違ったのではないか。
- H2 : 昭和14年。66年前。私が生まれた背景。貧しく、厳しかった。銀二の一途さは深い頑迷を持った。ペールの向上心はすばらしいもの。あい人を思う気持ち。どんな貧しい境地。生きる境遇も大事ではないか。愛とか出会いはたいせつではないか。魂だけは高いものに持ちなさいということ。出世よりは真摯に生きる姿勢。私の血液は汚れているなど芹沢作品にないものいろいろと書いていた。
- N : 若い時からつんどくに多い読み方をしている。まじめに読まなくてはいけない。出世譜はそれぞれの観点。自分に置き換えて論議したい。私のうまれば、戦中で戦後は何もなかった。向学心を持って来たけど結果は出なかった。集団就職といって今日の日本を支えてきた。作品では、良い展開ではないかと思ったけど、どうにか知たらいいのではないか。
- S : 時代背景はいろいろだったので芹沢精神についてどう話したらよいか。出世は必ずお金の問題を付いてくる。先生も書いている。皆様も先程から知っているけど、精神の持ちようはどうか。精神は貧しい。銅像はやってほしくない。主人公は銀二ではないか。テルと銀二、精神が△にいくのではないか。何かもので通じるのは失敗したのではないか。いつも時代も同じ。以下に心の持ちようが大切だろうか。
- K : 心にひっかかるものがある。テルさんには疑問をお持ちかもしれないけどこれ見よがしなものではないか。ご主人あってからこそ。国策として必要とされている。学校に行きたい、学校に行きたいというテルさんは今の時代ではない。27頁にテルはお金には非常に恵まれてもとあるが、身に付いた垢がある。馬鹿踊りというおかしさがある。
- S5 : テルさんの思想が二宮金次郎
- S6 : テルさんの墓前に一言いわない。その場その場で一生懸命考える。痛めつけない。心配りをしながらも一生懸命生きている。墓前に生きている。
- I3 : 片山さんに付こうとおもったけど、二宮金次郎に頭を下げさせられたのには反感がある。42 5行 少年時代の野望。この地を抜け出す。そこを通る子供に勉強をきなさいと、青年志を持つ・・・、一生懸命勉強 立身出世 男子の本懐と書いていた時代出世感はある一つ下に見て進歩させてたものだと提示。魂を傾ける大切さが大事だと思う。暗黒時代とっていたが目次が出すのは、参考になった。テルは辛い生き方をしている。それがこんな苦しい時代に持ち続けている。床の間に装飾は、5行目は、テルに話しても仕方がないということは、テルさんに話したのは、わかってしまうのではないか。学問の火をともしたのではないか。

G : キャリアという精神を変えている。

I 7 : 銀二は本当に幸せなのか。故郷に帰れない、帰らない状態。絵を書くことによって自分の気持ちを故郷に帰って恥ずかしくない、テルが一番幸せなのではないか。時代ではテルを幸せになるのではないか。

H 5 : 貧しさは実感としてわかる。

G 3 : 戦争への道 絹が輸出できない 身売りが出る。 アメリカの陰謀があった。

S 9 : 生涯をつくしておくめが50数歳。銀二30代 まだこれから。銀二さんがどうなるか。てる 隠居じい くめの旦那さんはどうなったか？

メッセージ

出世譜 出世はどういうものか、子供が大人に成っていく課程でどう取り入れているか 作者がどう伝えているか？おのれの軍靴の足音の中でどうだったか。銀二は故郷に帰らない。故郷に戻るか戻らないかは問題ではない。苦勞の仕方は違うがある程度成功する。二人で苦勞する。一応財産を蓄える。金持ちに成った夫と私は停滞する。世の中のために尽くすとはどうか、精神を鍛える、魂を鍛えるなどの出征感を鍛える。ツルの賢明なかたなのでわかるのではないか。出世を幸せな事に考える。物質ではなく、精神を鍛える財産みたいなもの。胸の中で勉強すると言うこと。精神的に脱却できていない。心の大切さ、出世とは外観ではなく、真実に純粹することではないか。真実を教えたい。純粹さ、美しさを訴えたかったのではないか？

